

平成18年度「専修学校を活用した若者・自立挑戦支援事業」成果報告書

事業名	「地域発」実践的IT活用・「めざせ」地域再生マネージャー人材養成プログラムの開発		
法人名	学校法人コア学園		
学校名	唐津コンピュータ専門学校		
代表者	理事長 門田章	担当者 連絡先	木原 厚二 TEL(0955)77-1771
<p>1. 事業の概要</p> <p>学校と先進IT企業と地元自治体、商工会議所、JA、地産企業等が連携し、情報発信技術や情報活用技術の習得と地域の宝(産品、観光等)を活かす地域再生マネージャーを目指した人材養成プログラムを開発する。さらに、実証講座を実施し、IT活用希望事業者に、習得したITの提供や地産・観光企業等の取材や体験実習を通し、人材育成の有効性を実証する。また、研究成果を弊社事業への展開と自・他地域への振興を図る。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>(1)IT観光教育プログラムの開発 実施委員会・開発教育分科会・実証教育分科会を開催し、観光サービス業における知識、実技と必要なIT技術の人材教育のためのカリキュラムを作成し、IT観光教育プログラムを開発した。</p> <p>(2)実証講座の実施 人材育成教育プログラムに基づき、実証講座「IT観光++スペシャリスト養成講座」を期間平成18年9月5日から平成19年1月31日まで9:00～16:00(土・日・祝日は休み)、受講生10名(修了8名)を対象に学科(109時間)、実技(449時間)実施した。</p> <p>(3)達成状況</p> <p>①資格取得 実証講座「IT観光++スペシャリスト養成講座」は学力達成レベルのマイルストーンとして資格取得試験を実施した。このことで受講者10名(修了生8名)は意欲的に資格取得にチャレンジし、日商PC検定試験(文書作成)合格者7名、日商PC検定試験(データ活用)合格者3名、ビジネス能力検定2級合格者4名、Webクリエイター能力認定試験初級合格者7名、唐津・呼子イカ検定合格者8名が資格を取得し、修了生全員が有資格者となった。</p> <p>②地域振興 9月5日、本実証講座「IT観光++スペシャリスト養成講座」の入校式はサガテレビ、唐津ケーブルテレビジョンの放映と唐津新聞に掲載し、取り上げられた。また、1月31日成果発表会ではサガテレビ、唐津ケーブルテレビジョンの放映、佐賀新聞、西日本新聞、唐津新聞に掲載された。特に、佐賀新聞は2月8日と16日の2回「2007青春・佐賀総体マナーアップクリーンアップさが」キャンペーンに大きく取り上げ、注目を集めた。また、1月31日佐賀県、唐津市、唐津市議会、唐津商工会議所、唐津観光協会、唐津農業協働組合、唐津港水産振興協会、唐津観光関連の企業・団体(約50名)の方々に前に成果発表・報告会を行った。つづいて、2月9日本校主催山口地区業務報告会(約20名)として、山口インフォメーション・カレッジで成果報告会を実施し、地域の振興を図った。</p> <p>③進路(就職) 修了生8名中、就職希望8名。就職状況は1名が地元で塾を開業、2名が不動産業、観光協会に内定。また、2名が短期契約事務、1名は塾英語講師(継続)に就く。残り2名は就職活動中である。修了後一ヶ月半で就職率は短期契約者を含めると75%となり、各自順調に自分の道を歩みだした。</p>			

②事業により得られた成果

(1)産官学の連携から生まれた人材育成

今回の講座の目的は、ITを活用できる地域再生マネジャーを目指した即戦力たる「観光スペシャリスト」の養成であったが、受講修了生8名共熱心に取り組み、初期の目的が果たされたものとする。

9月5日から5ヶ月間に亘り朝9時から夕方4時まで週5日間、総授業時間数558時間をかけ、修了式を無事迎えられた事は、感無量とするところである。まずIT授業。約300時間を費やしワード・エクセルといった基礎から、ホームページ・チラシポスター作成からパワーポイントを使ってのプレゼンテーションまで全員自由に操れるまでに成長した。また、総合講座では、大変重要な授業に位置づけ、あらゆる分野のエキスパート15名の方を招いた。その豊富な体験に裏づけられた専門的な話は、受講者に感銘を与え、プレゼンテーション(成果発表)のヒントや生きる糧になったはずである。

次に地元スポットの調査。[名所][旧跡][寺社仏閣][景勝地][歴史][自然][文化][まつり][慣習]並びに、農業・水産分野にわたり[地場産品][特産品]等調査研究し地元の事を熟知すること。そして今回の受講者を軸に「郷土を愛し」「心から唐津を自慢できる人」を一人でも多く育てる事。唐津市民一人一人が温かいホスピタリティでお迎えする事が出来る土壌作りをしていく事が大切であると考えているが、今回の受講者はその牽引役に立派に育ったと認識した。

昨年のこの受講者より2人が唐津市の観光を考えるプロジェクトである「再生マネジャー事業」の運営委員に選ばれ、5ヶ月間学んだ事を基に素晴らしい活躍を見せてくれた。今年度受講者8名の中からも既に何人か要請があつている事は、この事業へ対し行政も高く評価して頂いているのだと嬉しく感じているところである。昨年の10名、そして本年度の8名を加えた18名が、明日の唐津観光のスペシャリストとして果敢に牽引してくれる事を期待するものである。

③今後の活用

今後については、1つは、雇用能力開発機構で提案が採用され、平成19年度社会人向け(職業訓練)ITビジネス観光科(デュアル版5ヶ月)を平成19年8月から開始する。2つは、平成20年度に向け本科総合情報科に、コーディネーター(観光、特産品、ブライダル等)を育成する科目をカリキュラムに加える計画である。3つは、観光唐津のもう1つの柱として、唐津市はICT先進企業を迎え、若い人の雇用の場を提供する取り組みがなされている。本校はこの取り組みに積極的に参加し、人材育成面から、これまでの経験と人的ネットワークを生かし、より多くの若人を育て、若い人がこの唐津に活躍できる場を創造して行きたい。

④次年度以降における課題・展開

これからも人材育成を通し、街づくりに貢献できる人を育てることは使命だと感じている。本校は今年、ビジネス系の学科・コースを新設したが、高校生世代にとって大半の目は外に向いている。魅力と夢を育てるためには、地元住民・企業・団体と国・自治体が連携し、若い人が活躍できる雇用の場(事業)を創造し、地域みんなが支え、地元でしっかりと人材育成することが必要である。活躍の場が海外でもチャレンジでき、やがては地元へ戻って、今度は教える立場で若い人を育てるような、良いサイクルが生まれることを期待したい。本校はこれからもITのわかる各分野のエキスパートを育てるような、教育プログラム作りにチャレンジし、他校に先駆けてモデル校となるような成果を出して行きたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

唐津市及び周辺地区の観光関連団体の調査資料と聞き取り調査を実施し、現状・問題点・必要性・将来構想等の情報を収集し、必要とされるIT利活用スキルや利活用マネジメント(産品・観光資源等利活用・コーディネーター等)スキルを整理した。整理した資料を基に、実施委員会等の有識者から意見を徴収し、要求されるニーズとして資料にまとめた。

(1)唐津観光に何が求められているのか

(2)なぜ唐津の観光振興がうまくいかないのか

(3)課題・方向性

調査のまとめとしては、問題を解決するために若い世代の教育が不可欠になってくる。IT技術を身につけるだけでなく郷土について深く学ぶことがより一層の唐津のPRにつながっていくのではないかと。また唐津と外部をコーディネートできる人材(組織)の育成もまた必要になるだろう。そして何より郷土愛に培われた真のホスピタリティー精神をもった人材を育てることこそが重要ではないかと。郷土を愛し、自然を愛し、観光客を友人のように暖かく親切に迎える心をもった人材を育てることこそが、今後の唐津観光において重要になってくるだろう。

以上のことを考慮し、本事業のIT観光教育プログラムの策定に入った。

②カリキュラムの開発

(1)IT観光教育プログラムの開発

実施委員会・開発教育分科会・実証教育分科会を開催し、観光サービス業における知識、実技と必要なIT技術の人材教育のためのカリキュラムを作成し、IT観光教育プログラムを開発した。そのカリキュラムを元にして実証講座「IT観光++スペシャリスト養成講座」を実施し、その結果を実施委員会・開発教育分科会・実証教育分科会にフィードバックし、人材教育のためのカリキュラム・IT観光教育プログラムの評価と改善を行った。学習の進捗状況は月1回程度の受講生のヒアリングと講師のヒアリングから把握し、改善点は各分科会に反映する方法をとった。

(2)教育カリキュラムと内容

カリキュラム時間は学科(109時間) 9:00~16:00、実技(449時間) 9:00~16:00。

カリキュラム内容は学科は「国内(総合)旅客業務取扱」、「韓国語」「日常英会話」、「ビジネス能力」、「総合講座」の5項を学ぶ。

実技は「IT」、「ビジネス能力(ケーススタディ実習)」「コミュニケーション(プレゼンテーション)」、「現地視察」、「卒業制作」、「就職対策」の6項を学ぶ。その他、1日間の観光ボランティアガイドの実地研修をおこなった。

(3)時間割とスケジュール

土日祝日を休みとし、5ヶ月のスケジュール表を作成し、カリキュラムに従って、科目に時間を割り振り、時間割を作成した。

(4)講師・教材の選定

開発教育分科会が主体に講師は昨年の実績と実施委員会のメンバーに依頼し決めた。教材は昨年の実績とある程度、講師にゆだねた。

(5)科目の詳細スケジュール

開発教育分科会が主体となり、講師とヒアリングして、主に、資格取得を目指した詳細スケジュールを作成した。

③実証講座

人材育成教育プログラムに基づき、実証講座「IT観光++スペシャリスト養成講座」を次のとおり実施した。

①期間 平成18年9月5日から平成19年1月31日まで9:00~16:00 (土・日・祝日は休み)

②受講生 10名(修了8名)

③内容 学科(109時間)、実技(449時間)

④成果(資格取得)

このIT観光++スペシャリスト養成講座は学力達成レベルのマイルストーンとして資格取得試験を実施した。このことで受講者10名は意欲的に資格取得にチャレンジし、日商PC検定試験(文書作成)合格者7名、日商PC検定試験(データ活用)合格者3名、ビジネス能力検定2級合格者4名、Webクリエイター能力認定試験初級合格者7名、唐津・呼子イカ検定合格者8名が資格を取得し、修了生全員が有資格者となった。

受講者の感想は概ね資格を取得し自信を持つことができたこと。唐津のことをあまりにも知らないことが多く、唐津の良さや改善点がわかったこと。お客をもてなす視点から学ぶこと。また受講生同士、講師、視察地での方々の多くの出会いが人生の糧となった。

④その他

地方の振興を考えると、「産・学・官」が一体なって取り組み、地域の宝とは何かを、地域の人々が認識し、若い人へ伝え守って行くことが、より重要となってくるであろうと考え、観光をテーマに選んだ。地域のエキスパートの人々が、若い人へ伝える教育の場を総合講座で行ない、若い人が新鮮な目で現地を視察し、ITの適応力と柔軟な発想力を、成果発表の場でプレゼンテーション(伝える方法)こそ、この事業の特色と言える。